

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣特別支援学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和3年 6月30日(水) 10:00~12:00
- 3 開催場所 大垣特別支援学校 会議室
- 4 参加者

会 長	山 真弓	大垣公共職業安定所 総括職業指導官
副会長	山口 敏文	大垣水都ライオンズクラブ 青少年育成委員長
委 員	野村 哲夫	上笠自治会長
	石丸 明美	大垣市くすのき苑 係長
	山田 晃嗣	情報科学芸術大学院大学 准教授
	箕浦 智之	大垣共立銀行 江並支店支店長
	伊藤 三枝子	清流の国ぎふ女性防災士会 会長
	後藤 悦子	障がい者相談支援事業所 ゆう 所長
	澤井 恵美子	大垣特別支援学校 PTA 副会長
学校側	松原 勝己	校長
	後藤 睦子	教頭
	福島 洋之	教頭
	桐山 泉	事務部長
	佐藤 鈴子	小学部主事
	原 和代	中学部主事
	寺井 聡	高等部主事
	橋浦 夏子	教務主任

5 会議の概要

- (1) 学校概要及び学校経営方針について
- (2) 各学部の運営について
- (3) 年間行事計画について
- (4) 高等部卒業生の進路状況について
- (5) 使用教科書について
- (6) 作業製品価格について
- (7) 授業参観 高等部作業学習を中心に
- (8) 小中学部の児童生徒の活動について 児童生徒の活動の様子の動画を観ながら
- (9) ご指導・ご高評
- (10) 教頭挨拶

<協議事項>

- (1) 学校概要及び学校経営方針について
 - ・当校の児童生徒254名が在籍し、県内有数の大規模校である。
 - ・医療的ケア対象の児童生徒から大学進学を目指す生徒まで、幅広く支援を展開している。
 - ・当校教育目標について、自立と社会参加を目指している。

(2) 各部運営について

【小学部】

- ・今年度105名の児童でスタートした。
- ・資料より指導の方針、重点を説明。
- ・地域の方とのつながりを大切にしていきたい。

【中学部】

- ・今年度45名の生徒でスタートした。
- ・資料より指導の方針、重点を説明。
- ・地域の方ともかかわりながら活動を行っていくことを大切にしていきたい

【高等部】

- ・今年度104名でスタート
- ・資料より指導の方針、重点を説明。
- ・「働ける」「働き続ける」ことができるように「働く人になろう」をスローガンに掲げている。
- ・教職員間の共通理解、指導体制の強化を重点に挙げて取り組む。

(3) 年間行事計画について

- ・6月までの行事は、「まん延防止等重点措置」の関係で、行事等が延期や中止になってしまった。秋以降は、泊を伴う行事も予定されており、児童生徒も楽しみにしているので、感染症対策を行いながら準備を進め、有意義な活動ができるように考えている。

(4) 高等部卒業生の進路状況について

- ・一般就労の傾向において、令和2年度より職業コースがなくなり、就職者数、就職率の点で減少している。しかし、当校生徒に対してきめ細やかな支援はできていると考える。
- ・福祉就労の傾向では、A型事業所への就労が増加しており、生徒一人一人の課題にあった就労先を支援することができた。
- ・進学等についても、生徒のニーズに合わせて、進学支援だけでなく、就労へのサポートも行った。

(5) 使用教科書について

- ・段階を踏まえ、児童生徒に適したものを選定している。

(6) 作業学習製品価格について

意見1：材料や作り方が違っても同じ製品であれば、価格も同じにしてはどうか。

⇒ 市場価格を参考にしながら、原材料価格から設定している。

意見2：どの作業製品も工夫されている。教職員の日ごろからの取組に感謝する。

<学校運営協議会委員の方からの意見・高評>

意見1：高等部の作業学習の様子を見学し、一定方向を向いての作業や報告のみ声を発する指導であった。コロナ感染症対策を十分に意識した指導であったと感心した。

意見2：教科書以外に自由に読める本はあるか？

⇒ 児童生徒は図書室を利用している。図書室に行き、気に入った本を借りて教室で読むこともある。

意見3：防災に関して簡単にわかる本もあるので、手近に読めるように置いてあるとよいのではないか。

意見4：コロナ禍において、ふれあいを大切にしていることがよく分かった。人が人として生きていくために、福祉は福祉での、教育は教育での役割があることが分かり、今後福祉の役割として必要なことをしっかり押さえていきたいと感じた。

意見5：上級生がとても落ち着いて学習に取り組んでいる様子を参観し、さすが上級生と感じた。

意見6：校内を見学する際に、児童生徒がしっかり挨拶できていて、とても感心した。窯業の活動において、物の特徴をしっかりとつかんで製品にしており、素晴らしいと思った。ろくろを使っている生徒も高い技術であると感じた。

意見7：自分たちが作った製品を「買ってもらえた」「使ってもらえている」ときの喜びを大切にしたい。民間企業も販売機会を提供したり、人と接する機会を創出したりする手伝いができたらと思う。

意見8：高等部のスローガン「働く人になろう」は素敵なスローガンである。教室掲示やいろいろな場で、スローガンを意識した工夫があり感心した。また、毎年新しい製品を考案され、学習できる機会を大切にしている教職員の苦労を感じた。

意見9：自分の組織としても、学校のことをもっと知り、何ができるかを探りながら協力させていただきたい。

意見10：製品を作っているときのプロセスを提示することで、製品のイメージが浮かび上がる。生徒を知る機会になるので、プロセスを文字にするなど、工夫をされるとさらに意欲が増すのではないか。

6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、今年度の当校の学校運営基本方針等について、全委員より承認が得られた。
- ・コロナ禍にあって、作業製品の販路拡大や社会とのかかわり方について、委員の方の協力を得ながら進めていきたい。
- ・次回の学校運営協議会において、ICT機器の活用した授業風景や、防災学習についての授業動画等を参観する機会を設けたい。